

令和4年愛媛県感染症発生動向調査事業

細菌科 ウイルス科 疫学情報科

愛媛県感染症発生動向調査事業要綱(平成13年1月1日施行)に基づき、一類から五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、疑似症の116疾患(全数把握対象91疾患、定点把握対象25疾患)について発生動向調査を実施している。このうち定点把握対象疾患については、86患者定点から患者情報を収集し、19病原体定点から病原体情報を収集している。

当所は「愛媛県基幹地方感染症情報センター」として、病原体を含めた県内全域の感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果は「愛媛県感染症情報」及び「愛媛県感染症情報センターホームページ*」等により、迅速に還元・公開している。

(*<http://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/>)

1 患者発生状況

(1) 全数把握対象疾患

〔感染地域、感染経路については、確定あるいは推定として届出票に記載されたものを示す。〕

ア 一類感染症(7疾患)

患者報告はなかった。

イ 二類感染症(7疾患)

1疾患、結核125人の届出があり、病型は患者98人、無症状病原体保有者27人であった。性別は男性73人、女性52人で、年齢は10歳未満5人、10歳代1人、20歳代7人、30歳代4人、40歳代8人、50歳代9人、60歳代15人、70歳代29人、80歳代31人、90歳以上16人であった。なお詳細については、「結核登録者情報システム」のデータを基に、別項に掲載した((3)結核 参照)。

ウ 三類感染症(5疾患)

1疾患、腸管出血性大腸菌感染症9事例11人の届出があり、病型は患者7人、無症状病原体保有者4人であった(表1)。性別は男性6人、女性5人で、年齢は10歳未満3人、10歳代1人、30歳代2人、40歳代2人、60歳代1人、90歳以上2人であった。血清型はO157が8人、O8、O15、O55が各1人であった。感染地域は県内8人、県外1人、不明2人で、感染経路は経口感染4人、接触感染1人、不明6人であった。溶血性尿毒症候群(HUS)発症等の重症例の報告は無かった。

表1 腸管出血性大腸菌感染症届出事例

事例番号	診断日	届出保健所	血清型	ベロ毒素	患者・感染者数
1	3月 24日	八幡浜	O157	VT1・VT2	1
2	4月 23日	宇和島	O15	VT2	1
3	5月 11日	松山市	O157	VT2	1
4	8月 27日	四国中央	O157	VT1・VT2	1
5	9月 2日	松山市	O157	VT2	1
	9月 7日	松山市	O157	VT2	1
6	9月 8日	中予	O8	VT2	1
7	9月 15日	西条	O157	VT2	1
	9月 18日	西条	O157	VT2	1
8	10月 11日	松山市	O157	VT1・VT2	1
9	11月 19日	松山市	O55	VT1	1
合 計					11

表 2 四類感染症事例

疾患名	届出数
E型肝炎	2
重症熱性血小板減少症候群	4
日本紅斑熱	15
マラリア	1
レジオネラ症	21
レプトスピラ症	1
合計	44

エ 四類感染症(44 疾患)

6 疾患, 44 人の届出があった(表 2)。

E 型肝炎は 2 人の届出があり, 性別はすべて男性で, 年齢は 70 歳代と 80 歳代が各 1 人であった。いずれも感染地域は県内で, 感染経路は経口感染であった。

重症熱性血小板減少症候群は 4 人の届出があり, 性別は男性 3 人, 女性 1 人で, 年齢は 70 歳代 3 人, 80 歳代 1 人であった。いずれも感染地域は県内で, 感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

日本紅斑熱は 15 人の届出があり, 性別は男性 12 人, 女性 3 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 30 歳代 1 人, 50 歳代 1 人, 60 歳代 1 人, 70 歳代 8 人, 80 歳代 3 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路はいずれも動物・蚊・昆虫等からの感染であり, 15 人中 12 人にマダニ類による刺し口が確認された。

マラリアは 20 歳代女性 1 人の届出があり, 病型は熱帯熱であった。感染地域は国外で, 感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

レジオネラ症は 21 人の届出があり, 病型は肺炎型 19 人, ポンティアック熱型 2 人であった。性別は男性 16 人, 女性 5 人で, 年齢は 30 歳代 1 人, 50 歳代 2 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 7 人, 80 歳代 8 人, 90 歳以上 1 人であった。感染地域は県内 20 人, 県外 1 人で, 感染経路は水系感染 5 人, 塵埃感染 1 人, 不明 15 人であった。

レプトスピラ症は 50 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で, 感染経路は不明であった

オ 五類感染症(24 疾患)

16 疾患, 206 人の届出があった(表 3)。

アメーバ赤痢は 60 歳代男性 2 人の届出があり, 病型はすべて腸管アメーバ症であった。いずれも感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

ウイルス性肝炎は 3 人の届出があり, 病型は B 型 2 人,

EB ウイルス 1 人であった。すべて女性で, 年齢は 10 歳代, 40 歳代, 60 歳代が各 1 人であった。感染地域はいずれも県内で, 感染経路は性的接触 1 人, 不明 2 人であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 33 人の届出があった。性別は男性 20 人, 女性 13 人で, 年齢は 40 歳代 2 人, 60 歳代 5 人, 70 歳代 10 人, 80 歳代 10 人, 90 歳以上 6 人であった。感染地域は県内 30 人, 国内(都道府県不明)2 人, 不明 1 人で, 感染経路は以前からの保菌 15 人, 医療器具関連感染 2 人, その他 5 人, 不明 11 人であった。

急性弛緩性麻痺は 10 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で, 感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

急性脳炎は 10 歳未満男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で, 感染経路はその他であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 8 人の届出があった。性別は男性 4 人, 女性 4 人で, 年齢は 70 歳代 3 人, 80 歳代 3 人, 90 歳以上 2 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は創傷感染 2 人, その他 1 人, 不明 5 人であった。

表 3 五類感染症事例

疾患名	届出数
アメーバ赤痢	2
ウイルス性肝炎	3
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	33
急性弛緩性麻痺	1
急性脳炎	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8
後天性免疫不全症候群	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	9
水痘(入院例)	4
梅毒	120
播種性クリプトコックス症	7
破傷風	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1
百日咳	9
風しん	1
合計	206

後天性免疫不全症候群は4人の届出があり、病型は無症候性キャリア2人、AIDS2人であった。性別はすべて男性で、年齢は20歳代1人(無症候性キャリア)、30歳代2人(無症候性キャリア、AIDS各1人)、60歳代1人(AIDS)であった。感染地域はいずれも国内で、感染経路は同性間性的接触3人、異性間性的接触1人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は70歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は9人の届出があった。性別は男性6人、女性3人で、年齢は10歳未満2人、40歳代1人、60歳代1人、70歳代2人、80歳代3人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、不明7人であった。

水痘(入院例)は4人の届出があり、病型は臨床診断例3人、検査診断例1人であった。性別は男性3人、女性1人で、年齢は10歳代1人、30歳代1人、70歳代2人であった。感染地域はいずれも県内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染1人、不明3人であった。

梅毒は120人の届出があり、病型は早期顕症I期64人、早期顕症II期36人、無症候18人、晩期顕症2人であった。性別は男性87人、女性33人で、男性の年齢は10歳代1人、20歳代12人、30歳代30人、40歳代21人、50歳代15人、60歳代6人、70歳代2人で、女性の年齢は10歳代2人、20歳代17人、30歳代4人、40歳代6人、50歳代2人、70歳代2人であった。感染地域は県内95人、県外8人、国内(都道府県不明)3人、不明14人で、感染経路は性的接触107人、不明13人であった。

播種性クリプトコックス症は7人の届出があった。性別は男性5人、女性2人で、年齢は40歳代1人、50歳代1人、70歳代2人、80歳代3人であった。いずれも感染地域は県内で、感染経路・感染原因は免疫不全5人、不明2人であった。

破傷風は70歳代女性2人の届出があった。いずれも感染地域は県内で、感染経路・感染原因は針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明1人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は80歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内、感染経路は不明であった。

百日咳は9人の届出があった。性別は男性5人、女性4人で、年齢は10歳未満3人、10歳代4人、30歳代2人であった。感染地域は県内7人、国内(都道府県不明)

1人、不明1人で、感染経路はすべて不明であった。

風しんは10歳未満女性1人の届出があり、病型は検査診断例であった。感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

カ 新型インフルエンザ等感染症(4疾患)

「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)」における集計内容を示す。

1疾患、新型コロナウイルス感染症163285人の届出があった。性別は男性76,569人、女性81781人、その他23人、不明4912人であった。年齢は10歳未満20997人、10歳代21221人、20歳代20538人、30歳代22196人、40歳代22372人、50歳代15188人、60歳代13497人、70歳代12483人、80歳代8037人、90歳以上4332人、不明2424人であった。診断類型は患者156365人、無症状病原体保有者6668人、疑似症225人、感染症死亡者の死体26人、感染症死亡疑いの死体1人であった。

(2) 定点把握対象疾患

ア 週報対象疾患(18疾患)

定点からの週別患者報告数を表4に示した。

インフルエンザの報告数は150人(定点当たり2.5人)で、過去5年の平均(以下、例年とする)の0.01倍であり、1999年の感染症法施行以降では前年に次いで小規模な発生であった。前年から低レベルで推移していたが、10月以降増加傾向を示し、年末には流行開始の目安となる定点当たり1.0人を3年ぶりに超えた。

RSウイルス感染症の報告数は2288人(定点当たり61.9人)で例年の1.2倍であった。例年よりも早い5月中旬から増加しはじめ、8月上旬に流行ピークに達し、2003年の報告開始以降で3番目に大きな発生規模となった。

咽頭結膜熱の報告数は251人(定点当たり6.8人)で例年の0.5倍であり、1999年以降では最も小さい発生規模となった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は758人(定点当たり20.5人)で例年の0.2倍であり、1999年以降では最も小さい発生規模となった。

感染性胃腸炎の報告数は10542人(定点当たり285.8人)で例年の0.8倍であった。1月に報告数が増加したが、年間を通じて流行ピークはみられず、1999年以降では最も小さい発生規模となった。

水痘の報告数は145人(定点当たり3.9人)で例年の0.3倍であり、1999年以降では最も小さい発生規模となった。

手足口病の報告数は1138人(定点当たり30.8人)で例

年の0.4倍であった。例年よりも遅く9月頃から増加しはじめたが、目立った流行ピークがないまま12月下旬まで発生が続いた。

伝染性紅斑の報告数は27人(定点当たり0.7人)で例年の0.07倍であり、1999年以降では最も小さい発生規模となった。

突発性発しんの報告数は831人(定点当たり22.5人)で例年の0.7倍であった。例年と同様に年間を通じて大きな変動を示さず、1999年以降で最も小さい発生規模となった。

ヘルパンギーナの報告数は186人(定点当たり5.0人)で例年の0.3倍であった。年間を通じて低いレベルで推移し、1999年以降で最も小さい発生規模となった。

流行性耳下腺炎の報告数は69人(定点当たり1.9人)で例年の0.1倍であり、1999年以降で最も小さい発生規模となった。

急性出血性結膜炎の報告数は1人(定点当たり0.1人)で例年の0.5倍であった。

流行性角結膜炎の報告数は259人(定点当たり32.6人)で例年の0.4倍であった。年間を通じて報告数に大きな変動を示さず、1999年以降で最も小さい発生規模となった。

感染性胃腸炎(ロタウイルス胃腸炎)の報告数は4人(定点あたり0.7人)で例年の0.2倍であった。

細菌性髄膜炎の報告数は1人(定点当たり0.2人)で例年の0.3倍であった。病原体は不明であった。

無菌性髄膜炎の報告数は1人(定点当たり0.2人)で例

年の0.4倍であった。病原体は不明であった。

マイコプラズマ肺炎の報告数は1人(定点当たり0.2人)で例年の0.01倍であった。

クラミジア肺炎の報告はなかった。

イ 月報対象疾患(7疾患)

定点からの月別患者報告数を表5に示した。

性器クラミジア感染症の報告数は198人(定点当たり18.0人)で例年の2.2倍であった。性別は男性57人、女性141人であった。

性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は154人(定点当たり14.0人)で例年の2.4倍であった。性別は男性129人、女性25人であった。

尖圭コンジローマの報告数は68人(定点当たり6.2人)で例年の2.1倍であった。性別は男性53人、女性15人であった。

淋菌感染症の報告数は107人(定点当たり9.7人)で例年の2.5倍であった。性別は男性82人、女性25人であった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数は92人(定点当たり15.3人)で例年の0.9倍であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告数は1人(定点当たり0.2人)で例年の0.6倍であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は4人(定点当たり0.7人)で例年の5.0倍であった。

表4 定点把握五類感染症 週別患者報告数

疾患	疾患\週																											合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
インフルエンザ	1	0.0	1	0.0	1	0.0	2	1	0.0	0.0	0.0	1	1	0.0	0.0	1	1	0.0	1	1	0.0	1	1	0.0	1	1	0.0	1
(定点当たり)																												
RSウイルス感染症	1	0.0	4	0.0	7	17	30	13	15	50	34	44	22	16	13	11	3	3	7	10	13	3	25	37	24	68	84	
(定点当たり)																												
咽頭結核熱	12	6	3	3	7	6	5	1	5	2	1	2	1	3	2	3	5	3	3	7	13	24	13	12	16	10	14	
(定点当たり)																												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.6	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	
(定点当たり)																												
突発性発疹	19	15	31	28	26	26	16	10	9	10	21	9	5	11	15	23	9	11	18	26	20	10	17	15	5	5	12	
(定点当たり)																												
感染性胃腸炎	256	311	346	383	325	331	375	324	366	375	278	275	244	166	204	192	203	141	207	232	224	248	248	244	245	235	194	
(定点当たり)																												
水痘	6.9	8.4	9.4	10.4	8.8	8.9	10.1	8.8	9.9	10.1	7.5	7.4	6.8	4.6	5.7	5.3	5.6	3.9	5.6	6.3	6.1	6.7	6.7	6.6	6.6	6.4	5.2	
(定点当たり)																												
手足口病	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	
(定点当たり)																												
伝染性紅斑	22	8	5	5	3	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	1	1	1	6	
(定点当たり)																												
流行性耳下腺炎	0.6	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	
(定点当たり)																												
突発性発疹	7	10	21	11	15	18	23	10	13	12	16	9	12	11	19	20	25	14	18	28	20	25	24	29	20	25	13	
(定点当たり)																												
ヘルパンギーナ	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	3	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
(定点当たり)																												
流行性耳下腺炎	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
(定点当たり)																												
インフルエンザ	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	52	150	
(定点当たり)																												
RSウイルス感染症	165	191	133	149	111	82	64	98	58	111	84	76	75	52	59	33	22	27	18	9	24	32	19	15	23	2,288		
(定点当たり)																												
咽頭結核熱	4.5	5.2	3.6	4.0	3.0	2.2	1.7	2.6	1.6	3.0	2.3	2.1	2.0	1.4	1.6	0.9	0.6	0.7	0.5	0.2	0.6	0.9	0.5	0.4	0.6	61.9		
(定点当たり)																												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	14	7	6	1	3	2	2	1	3	2	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	1	2	1	2	6	251	
(定点当たり)																												
突発性発疹	0.2	0.4	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	6.8		
(定点当たり)																												
感染性胃腸炎	12	9	7	13	4	1	7	14	11	13	6	5	16	9	13	25	16	13	29	15	23	19	19	29	8	758		
(定点当たり)																												
水痘	0.3	0.2	0.2	0.4	0.1	0.0	0.2	0.4	0.3	0.4	0.2	0.1	0.4	0.2	0.4	0.7	0.4	0.4	0.8	0.4	0.6	0.5	0.5	0.8	0.2	20.5		
(定点当たり)																												
感染性胃腸炎	211	169	170	143	106	76	83	120	121	114	102	138	140	95	128	153	139	116	161	116	140	181	155	152	141	10,542		
(定点当たり)																												
水痘	5.7	4.6	4.6	3.9	2.9	2.1	2.2	3.2	3.3	3.1	2.8	3.7	3.8	2.6	3.5	4.1	3.8	3.1	4.4	3.1	3.8	4.9	4.2	4.1	3.8	285.8		
(定点当たり)																												
手足口病	14	3	4	4	3	1	2	1	2	1	3	2	3	1	1	1	2	6	2	3	2	8	3	2	2	145		
(定点当たり)																												
伝染性紅斑	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	3.9		
(定点当たり)																												
手足口病	4	7	5	13	12	24	16	21	26	39	28	40	67	59	78	107	110	101	95	75	49	36	24	17	20	1,138		
(定点当たり)																												
伝染性紅斑	0.1	0.2	0.1	0.4	0.3	0.6	0.4	0.6	0.7	1.1	0.8	1.1	1.8	1.6	2.1	2.9	3.0	2.7	2.6	2.0	1.3	1.0	0.6	0.5	0.5	30.8		
(定点当たり)																												
突発性発疹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	27		
(定点当たり)																												
伝染性紅斑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7		
(定点当たり)																												
突発性発疹	16	14	11	15	14	17	11	19	15	13	18	18	14	16	15	17	12	14	18	10	16	12	16	10	12	831		
(定点当たり)																												
ヘルパンギーナ	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	22.5		
(定点当たり)																												
伝染性紅斑	1	2	3	4	4	4	4	11	10	6	3	4	17	12	8	10	7	12	11	7	12	9	7	1	2	186		
(定点当たり)																												
流行性耳下腺炎	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.0	0.1	5.0		
(定点当たり)																												
流行性耳下腺炎	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	1	3	2	1	1	2	1	1	2	69		
(定点当たり)																												
流行性耳下腺炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	1.9		
(定点当たり)																												

表 4 定点把握五類感染症 週別患者報告数(続き)

疾患\週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
急性出血性結膜炎 (定点当たり)																											
流行性角結膜炎 (定点当たり)	2	3	10	7	6	7	4	4	5	5	3	7	2	4	4	7	10	4	4	7	7		8	9	3	6	10
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるのに限る) (定点当たり)	0.3	0.4	1.3	0.9	0.8	0.9	0.5	0.5	0.6	0.6	0.4	0.9	0.3	0.3	0.5	0.9	1.4	0.5	0.5	0.9	0.9		1.0	1.1	0.4	0.8	1.3
細菌性髄膜炎 (定点当たり)		0.3																	1	0.2							
無菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)																		1	0.2								
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)																											
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)																											

疾患\週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	合計	
急性出血性結膜炎 (定点当たり)																					1					1	1
流行性角結膜炎 (定点当たり)	3	7	2	9	2	2	2	5	8	15	12	3	5	3	5	5	1	4	6	4	2	2	2	3	3	259	
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるのに限る) (定点当たり)	0.4	0.9	0.3	1.1	0.3	0.3	0.6	1.0	1.9	1.5	0.4	0.6	0.4	0.6	0.6	0.6	0.1	0.5	0.8	0.5	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	32.6	
細菌性髄膜炎 (定点当たり)											1															4	
無菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)											0.2															0.7	
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)							1																			1	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)							0.2					0.2														0.2	

表 5 定点把握五類感染症 月別患者報告数

疾患\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
性器クラミジア感染症 (定点当たり)	13	15	15	17	17	19	16	12	15	20	24	15	198
性器ヘルペスウイルス感染症 (定点当たり)	12	14	14	14	15	15	17	15	11	14	18	22	180
尖圭コンジローマ (定点当たり)	13	11	14	14	14	15	10	14	16	10	11	12	154
淋菌感染症 (定点当たり)	12	10	13	13	13	14	0.9	1.3	1.5	0.9	1.0	1.1	14.0
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (定点当たり)	4	4	5	5	8	5	6	7	6	4	7	7	68
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (定点当たり)	0.4	0.4	0.5	0.5	0.7	0.5	0.5	0.6	0.5	0.4	0.6	0.6	6.2
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)	8	11	17	8	12	9	8	9	9	3	9	4	107
	0.7	1.0	1.5	0.7	1.1	0.8	0.7	0.8	0.8	0.3	0.8	0.4	9.7
	6	9	8	6	9	11	6	9	7	4	10	7	92
	1.0	1.5	1.3	1.0	1.5	1.8	1.0	1.5	1.2	0.7	1.7	1.2	15.3
			1										1
			0.2										0.2
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	0.2	0.2		0.2			0.2						0.7

(3) 結核

〔「結核登録者情報システム」における集計内容を示す.〕

結核患者発生状況(新登録患者)を表6に示した.

令和4年の結核新登録患者数は98人で、前年の110人から12人減少した。罹患率(人口10万対率)は7.5となり、前年の8.3から0.8減少し、結核低まん延の指標とされる「罹患率10以下」を4年連続して下回った。新登録患者のうち、排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗沫陽性肺結核患者数は46人で、前年の48人から2人減少し、罹患率は3.5となり、前年の3.6から0.1減少した。新登録肺結核患者に占める喀痰塗沫陽性患者の割合は

63.0%で、前年の59.3%から増加した。年齢階級別の罹患率を前年と比較すると、20歳代では横ばい、10歳代、40歳代、60歳代では増加、その他の年齢層では減少した。保健所別の罹患率を比較すると、高い順に八幡浜保健所12.7(前年8.5)、宇和島保健所12.1(前年13.8)、四国中央保健所11.2(前年4.9)、西条保健所9.7(前年10.1)、今治保健所7.2(前年9.0)、松山市保健所5.1(前年7.1)、中予保健所2.4(前年7.2)であり、四国中央保健所と八幡浜保健所では前年より増加、その他の保健所では減少した。

表6 結核患者発生状況(新登録患者)

		活動性結核					潜在性結核 感染症 (別掲)
		総数	肺結核活動性			肺外結核 活動性	
			喀痰塗沫 陽性	その他の 結核菌 陽性	菌陰性 ・ その他		
						治療中	
保 健 所 別	四国中央	9	6	2		1	4
	西条	21	9	7	1	4	5
	今治	11	8	1		2	3
	松山市	26	11	9		6	4
	中予	3	2			1	1
	八幡浜	16	7	3	1	5	6
	宇和島	12	3	3		6	5
愛媛県合計		98	46	25	2	25	28
年 齢 別	0-4						5
	5-9						
	10-14						
	15-19	1				1	
	20-29	5	2		1	2	2
	30-39	3	1	2			1
	40-49	5	2	2		1	3
	50-59	3	1			2	7
	60-69	15	8	5		2	
	70-79	22	10	7		5	7
	80-89	27	13	6	1	7	3
90-	17	9	3		5		

2 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

ア 腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症患者及び無症状病原体保有者の届出があった場合には、分離された菌株について当所で確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所では、EHEC O26, O111, O157 については multilocus variable-number tandem repeat analysis (MLVA) 法による型別を実施し、その他の EHEC についてはパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法による型別を実施して、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak (散在的集団発生)”を監視している。当所では、分離株の生化学的性状、O 抗原及び H 抗原の血清型別、ベロ毒素(VT)の型別、薬剤感受性試験、PFGE 法に加え、EHEC O157, O26, O111 については MLVA 法を実施し、県内規模の diffuse outbreak を監視している。薬剤感受性試験は、臨床・検査標準協会(CLSI)の抗菌薬ディスク感受性試験実施基準等に基づき、アンピシリン(ABPC)、セフトキシム(CTX)、ゲンタマイシン(GM)、カナマイシン(KM)、イミペネム(IPM)、ノフロキサシン(NFLX)、シプロフロキサシン(CPFX)、ナリジクス酸(NA)、ST 合剤(SXT)、メロペ

ネム(MEPM)、セフトジジム(CAZ)、ホスホマイシン(FOM)、クロラムフェニコール(CP)、セフォキシチン(CFX)、アミカシン(AMK)、ストレプトマイシン(SM)、テトラサイクリン(TC)、コリスチン(CL)の 18 薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあった EHEC 患者及び無症状病原体保有者 10 名から分離された EHEC について解析を行った(表 7)。分離株の血清型別及び VT 型別を併せた分類では、O157:H7 VT2 が 5 株、O157:H7 VT1&2 が 3 株、O8:H19 VT2, O15:H-/Hg16 VT2 が各 1 株であった。

事例 1(患者 1 名, O157:H7 VT1&2)の MLVA コンプレックス(22c068)は、2022 年 11 月～2023 年 1 月の間に大阪府内で分離された株と同 MLVA 型であったが、疫学的な関連は見いだせなかった。事例 2(無症状病原体保有者 1 名, O15:H-/Hg16 VT2)は、職場の健康診断(検便検査)で分離された。イムノクロマト法及び逆受身ラテックス凝集反応法を用いたベロ毒素産生試験ではベロ毒素産生は確認できず、遺伝子解析の結果、*stx2* のバリエーションである *stx2g* 遺伝子を保有していた。事例 4(患者 1 名, O157:H7 VT1&2)は、2019 年以降全国で散発的に分離されている MLVA 型(19m0460)で、2022 年 2 月にも大阪で分離されているが、疫学的な関連は見いだせなかった。事例 6(患者 1 名, O8:H19 VT2)は、*Staphylococcus aureus* (黄色ブドウ球菌エンテロトキシン遺伝子 *seh* 保有)を起因病原体とした食中毒事例の有症者検便検査で分離した。

表 7 愛媛県内における腸管出血性大腸菌感染症患者からの分離株(2022 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT 型別	病原因子	耐性薬剤	MLVA 型 ²⁾	MLVA ³⁾ コンプレックス	PFGE ⁴⁾	株数
					O	H ¹⁾							
1	3/24	八幡浜	散発	1	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>		22m0017	22c068	O157-2022-01	1
2	4/23	宇和島	散発	1 (1)	15	H-/Hg16	2	<i>stx2g</i>					1
3	5/11	松山市	散発	1	157	7	2	<i>eae, hlyA</i>	SXT, CP, SM, TC	22m0029		O157-2022-02	1
4	8/27	四国中央	散発	1	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>		19m0460		O157-2022-04	1
5	2023/9/2～9/7	松山市	家庭内	2 (1)	157	7	2	<i>eae, hlyA</i>		22m0427		O157-2022-05	2
6	9/8	中予	散発	1	8	19	2	<i>eae, hlyA, stx2e</i>					1
7	2023/9/15～9/18	西条	家庭内	2 (1)	157	7	2	<i>eae, hlyA</i>		22m0428		O157-2022-06	2
8	10/11	松山市	散発	1	157	7	1 2	<i>eae, hlyA</i>		22m0426		O157-2022-03	1
計				10 (3)									10

1) Hg : H-genotyping PCR 法による判別。国立感染症研究所で実施。

2) MLVA : ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与された MLVA 型。"22mXXXX" [-22, 2022(分離年), -m, MLVA, -XXXX, 番号] と表記。

3) MLVA コンプレックス : SLV (Single locus variant: 一遺伝子座でリピート数が異なる, PFGE における 2～3 バンド違いと同様の意味。)の関係にある MLVA 型。"22cYYY" [-22, 2022(分離年), -c, complex, -YYY, 番号] と表記。

4) PFGE : pulsed-field gel electrophoresis。ゲノム DNA を任意の制限酵素にて消化し、断片化された DNA 分子を電気泳動してバンドパターンを比較する方法。当所において付与した PFGE 型。"O-2022-Z[-O,O 血清型, -2022,2022(分離年), -Z, 番号] と表記。

イムノクロマト法によるペロ毒素産生試験ではペロ毒素産生は確認できず、遺伝子検査の結果、*stx2* のバリエーションである *stx2e* を保有していた。当該患者からは、*S. aureus* (*seh* 遺伝子保有)と EHEC O8:H19 が同時に分離されているため、胃腸炎症状の直接的な起因病原体は不明である。

病原因子関連遺伝子は、10 株中 9 株がエンテロヘモリジン遺伝子である *hlyA* 遺伝子及びインチミン遺伝子(*eae* 遺伝子)を保有していた。

薬剤感受性試験の結果、10 株中 9 株は全ての株に感性であり、1 株(事例 3)のみ SXT, CP, SM, TC の 4 剤に耐性を示す多剤耐性株であった。

イ レジオネラ症

県内で届出のあったレジオネラ症患者から分離されたレジオネラ属菌 1 株について解析を行った(表 8)。病原体は *Legionella pneumophila*, 血清群 1 (Serogroup:SG1) であった。SBT 解析 (Sequence-Based Typing) の結果、当該株の Sequence Type は ST260 であった。

ウ レプトスピラ症

県内医療機関から管轄保健所にレプトスピラ症を疑う患者 1 例の報告があり、当所を通じて国立感染症研究所に検査を依頼した。その結果、ペア血清による抗体陽転が確認され、当該患者はレプトスピラ症患者であることが判明した。血清型は *Autumnalis* であった(表 9)。

エ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

県内でカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症の届出があった場合は、平成 29 年 3 月 28 日付け健感発 0328 第 4 号厚生労働省健康局結核感染症課長通知「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症等に係る試験検査の実施について」に基づき、当該菌株について PCR 法による主要なカルバペネマーゼ遺伝子(IMP 型, NDM 型, VIM 型, KPC 型, GES 型, OXA-48 型)の検出及び阻害剤を用いた β -ラクタマーゼ産生性の確認等、詳細な分子疫学的解析を実施している。

県内で届出のあった CRE 感染症患者 33 名の患者由来株が搬入された。菌種の内訳は、*Klebsiella aerogenes*

が 16 株、*Enterobacter cloacae* が 4 株、*Enterobacter sp.* が 3 株、*Citrobacter freundii*, *Enterobacter hormaechei* が各 2 株、*Citrobacter amalonaticus*, *Enterobacter canserogenus*, *Enterobacter kobei*, *Proteus mirabilis*, *Proteus penneri*, *Serratia marcescens* が各 1 株であった(表 10)。PCR 法による主要なカルバペネマーゼ遺伝子検出の結果、全ての株でカルバペネマーゼ遺伝子保有は検出されず、阻害剤を用いた β -ラクタマーゼ産生性の結果と矛盾はなかった。

オ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出があった場合には、当所で当該菌株について Lancefield の分類により群別を行い、A 群溶血性レンサ球菌については T 血清型別を実施している。

県内で届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者由来 7 株が搬入された。Lancefield 分類による群別の結果、B 群溶血性レンサ球菌 3 株、G 群溶血性レンサ球菌 2 株、A 群溶血性レンサ球菌及び C 群溶血性レンサ球菌がそれぞれ 1 株であった(表 11)。

A 群溶血性レンサ球菌の菌種は、*Streptococcus pyogenes* で、T 血清型別は TB3264 であった。

カ 侵襲性肺炎球菌感染症

県内で届出のあった侵襲性肺炎球菌感染症患者 2 名から分離された肺炎球菌 2 株について、当所を通じて国立感染症研究所に送付し、血清群及び遺伝子型別等の分子疫学的解析を実施した。血清群と Sequence type は 35B が ST558, 10A が ST1263 であった(表 12)。

キ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

県内でバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症の届出があった場合は、平成 29 年 3 月 28 日付け健感発 0328 第 4 号厚生労働省健康局結核感染症課長通知「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症等に係る試験検査の実施について」に基づき、当該菌株について菌種同定、耐性遺伝子検査等、詳細な分子疫学的解析を実施している。

県内で届出のあった VRE 感染症患者 1 名の患者由来株が搬入された。菌種は *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は *vanA* であった(表 13)

表 8 愛媛県における

レジオネラ症患者からの分離株(2022 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	病原体	血清群	ST ¹⁾
1	9/28	松山市	散发	<i>Legionella pneumophila</i>	SG1	ST260

1) SBT 解析 (Sequence-Based Typing) による Sequence type.

表 9 愛媛県における

レプトスピラ症患者からの分離株(2022 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	検出方法 ¹⁾	血清型
1	10/7	宇和島	散发	顕微鏡下凝集試験法(MAT)による抗体の検出 (ペア血清による抗体陽転)	<i>Autumnalis</i>

1) 検査は国立感染症研究所で実施

表 10 愛媛県におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症患者からの分離株(2022 年)

菌株番号	診断月日	保健所	検出検体	検出菌種 ¹⁾	PCR法			表現型検査			
					カルバペネマーゼ遺伝子 ¹⁾	ESBL ²⁾	AmpC ³⁾	クラブラン酸試験	SMA ⁴⁾	ボロン酸	クロキサシリン
1	2021/12/28	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
2	1/20	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
3	1/24	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
4	2/3	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
5	2/21	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
6	4/2	宇和島	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	+
7	5/26	松山市	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
8	6/6	松山市	腹水	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	EBC	-	-	-	-
9	6/11	松山市	尿	<i>Enterobacter sp.</i>	-	-	EBC	-	-	-	-
10	7/5	宇和島	尿	<i>Proteus penneri</i>	-	-	-	-	-	-	-
11	7/7	宇和島	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
12	7/7	宇和島	喀痰	<i>Proteus mirabilis</i>	-	-	-	-	-	-	-
13	7/11	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
14	7/13	宇和島	ドレーン先端	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
15	7/19	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
16	7/22	中予	腹水	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
17	7/25	松山市	胆汁	<i>Citrobacter freundii</i>	-	-	-	-	-	-	-
18	8/22	松山市	皮膚	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
19	8/26	宇和島	喀痰	<i>Citrobacter amalonaticus</i>	-	-	-	+	+	-	-
20	9/2	宇和島	喀痰	<i>Enterobacter sp.</i>	-	-	EBC	-	-	-	-
21	9/6	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
22	9/8	宇和島	開放性膿	<i>Enterobacter sp.</i>	-	-	-	-	-	-	-
23	9/15	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
24	9/26	松山市	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
25	10/5	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
26	10/12	宇和島	喀痰	<i>Enterobacter canserogenus</i>	-	-	EBC	-	-	-	-
27	10/17	中予	ふん便	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
28	10/30	宇和島	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
29	11/1	宇和島	尿	<i>Enterobacter hormaechei</i>	-	-	-	-	-	-	-
30	11/8	宇和島	尿	<i>Citrobacter freundii</i>	-	-	-	-	-	-	-
31	11/15	宇和島	尿	<i>Enterobacter hormaechei</i>	-	-	-	-	-	-	-
32	11/22	宇和島	膿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
33	12/5	宇和島	胆汁	<i>Enterobacter kobei</i>	-	-	-	-	-	-	-
34	12/6	宇和島	肺組織	<i>Serratia marcescens</i>	-	-	-	-	-	-	-

- 1) カルバペネマーゼ遺伝子:IMP, VIM, NDM, KPC, OXA-48, GES
 2) 基質拡張型β-ラクタマーゼ遺伝子:TEM型, SHV型, CTX-M-1group, CTX-M-2 group, CTX-M-9 group
 3) AmpC β-ラクタマーゼ遺伝子:MOX, CIT, DHA, EBC, FOX, ACC
 4) SMA:メルカプト酢酸ナトリウム試験

表 11 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症
患者からの分離株(2022 年)

診断月日	保健所名	菌種	Lancefield群別 血清型	T血清型別
1/4	松山市	<i>Streptococcus G</i>	G群	—
1/27	八幡浜	<i>Streptococcus pyogenes</i>	A群	TB3264
5/6	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
6/24	松山市	<i>Streptococcus C</i>	C群	—
8/10	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
10/24	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
10/31	宇和島	<i>Streptococcus G</i>	G群	—

表 12 愛媛県における侵襲性肺炎球菌感染症
患者からの分離株(2022 年)

菌株番号	診断月日	保健所	検査検体	血清型	ST
1	5/21	松山市	血液	35B	558
2	7/29	中予	喀痰	10A	1263

表 13 愛媛県におけるバンコマイシン耐性腸球菌感染症
患者からの分離株(2022 年)

菌株番号	診断月日	保健所	検出検体	検出菌種	耐性遺伝子
1	10/21	今治	喀痰	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>

菌株番号	診断月日	保健所	検査検体	血清型	ST
1	5/21	松山市	血液	35B	558
2	7/29	中予	喀痰	10A	1263

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎等患者から採取された検体について細菌学的検査を実施している。

ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

咽頭ぬぐい液を羊血液寒天培地で分離を行い、β溶血を認めた集落について同定検査及び Lancefield の分類による群別試験を実施した。A群溶血性レンサ球菌と同定された菌株については、T血清型別を実施した。

病原体定点においてA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から採取された咽頭ぬぐい液1件中1件(100%)からA群溶血性レンサ球菌が分離された。T血清型別は、TB3264であった(表14)。

イ 感染性胃腸炎

検査対象病原体は下痢原性大腸菌、サルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌とし、通常3種類の選択分離培

地上に発育した集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験等により同定している。下痢原性大腸菌は11種類(*stx1*, *stx2*, *stx2f*, *estA1*, *estA2*, *elt*, *invE*, *aggR*, *eae*, *astA*, *afaD*)の病原因子関連遺伝子の有無をPCR法で確認し、腸管出血性大腸菌(EHEC)、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)、腸管病原性大腸菌(EPEC)及び腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC)、その他の大腸菌(EASTIEC, DAEC)に分類し、市販免疫血清で血清型別を実施している。カンピロバクター属菌は、*Campylobacter spp.*, *C. jejuni*, *C. coli*, *C. lari*, *C. upsaliensis*, *C. fetus*を対象とした Multiplex-PCR を実施し、*C. jejuni*については Penner の耐熱性抗原による血清型別試験及び遺伝子検査を実施している。

感染性胃腸炎患者糞便検体8検体について検査を実施した結果、4検体から病原細菌を検出した。検出した病原細菌は、カンピロバクター属菌が3株、EASTIECが1株分離された。カンピロバクター属菌の菌種は全て *C. jejuni* で、Pnner 型別はR型が1株、gA群が1株、gG群が1株であった(表14)。

表 14 愛媛県における定点把握対象感染症患者からの病原細菌検出状況(2022年)

疾患名	検出病原菌	血清型別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群レンサ球菌咽頭炎	<i>S. pyogenes</i> (A群)	T4												1	1
	計													1	1
	検査数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
感染性胃腸炎	病原大腸菌								1						1
	サルモネラ属菌														0
	カンピロバクター属菌				1	1	1								3
	計		0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	4
	検査数		1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	8

3 ウイルス検査状況

(1) 全数把握対象感染症

県保健所及び松山市から依頼を受けた検体について遺伝子増幅法によるウイルス検査を実施した。

ア E 型肝炎

医療機関から保健所に報告のあった E 型肝炎 1 症例について、遺伝子増幅検査による E 型肝炎確認検査を実施した結果、E 型肝炎ウイルスが検出された。

イ A 型肝炎

医療機関から保健所に報告のあった A 型肝炎 1 症例について、遺伝子増幅検査による A 型肝炎確認検査を実施した結果、陰性であった。

ウ 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

疑い患者 15 例について検査した結果、4 例から SFTS ウイルスが検出された (検出率 26.7%)。

エ 風しん

医療機関から保健所に報告のあった風しん 1 症例について、遺伝子増幅検査による風しん確認検査を実施した結果、陰性であった。

オ 急性弛緩性麻痺 (AFP)

医療機関から保健所に報告のあった AFP 1 症例について、ウイルス分離検査及び遺伝子増幅検査を実施した結果、ウイルスは検出されなかった。

カ 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染症

2021 年 2 月 13 日から新型インフルエンザ等感染症となった新型コロナウイルス感染症について、15398 例 (鼻咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液、唾液) の検査を実施した結果、4664 例が陽性であった。当所で実施した検査数と陽性数の推移を表 15 に示した。

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められ

た指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、ウイルス検査対象疾患、呼吸器感染症及び発疹症等患者から採取された検体についてウイルス学的検査を実施した。なお、呼吸器感染症等患者検体からのウイルス分離には FL, RD-18s, Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期には MDCK 細胞を併用した。また必要に応じて PCR 法、リアルタイム PCR 法を実施した。感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検索には、電子顕微鏡法、PCR 法、リアルタイム PCR 法及びイムノクロマト (IC) 法を用いた。呼吸器感染症等患者検体 23 例から検出されたウイルスは 17 例 (検出率 73.9 %)、感染性胃腸炎患者検体 7 例から検出されたウイルスは 4 例 (検出率 57.1 %) であった。

呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 16 に、感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 17 に示した。

呼吸器感染症等患者検体:インフルエンザ患者検体からのインフルエンザウイルス検出状況は、新型コロナウイルス流行の影響と考えられる全国的なインフルエンザ患者の減少もあり、2022 年の検出は 2 例のみであった。また、2021/2022 シーズン (2021 年 9 月 5 日～2022 年 9 月 4 日) において、インフルエンザウイルスは検出されなかった。

手足口病患者検体からは、コクサッキーウイルス (CV) A 群 (2 及び 6 型) が 12 例検出され、CV-A2 が 1 例、CV-A6 が 11 例であった。

また、流行性角結膜炎患者検体からアデノウイルス (37 型) が 3 例検出された。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況は、ノロウイルス GII が 3 例 (検出率 42.9 %)、ノロウイルス GII・サポウイルスの重複感染例が 1 例 (14.3 %) であった。ノロウイルス GI は検出されなかった。

表 15 SARS-CoV-2 遺伝子増幅検査と県内陽性者の状況

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
検査数	6210	2307	1499	1016	858	541	1136	836	269	114	310	302	15398
陽性数	1051	373	343	270	278	208	407	730	260	110	256	378	4664

表 16 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ AH3型												2	2
コクサッキーA群 2型												1	1
6型							2	2		3	4		11
アデノウイルス 37型	1				1				1				3
合計							2	2		3	4	3	17
検査数	1			1	1		3	2	1	3	5	6	23

表 17 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ノロウイルス GII		1	2*	1									4
サポウイルス			1*										1
合計		1	2*	1									4
検体数	1	1	2	1		2							7

*ノロウイルス GII・サポウイルス重複感染